

## その1. ハード面から見た場合

兵庫教育大. ○青野香織 田中せつ子 菊澤康子

目的：シルバーハウジングプロジェクトは、住宅施策と福祉施策の連携のもとに、高齢者単身・夫婦世帯が自立して安全かつ快適な生活を営むことができる物的条件と共に、緊急対応などの人的なサービスが受けられる公共住宅の供給を推進する目的で、昭和62年度から国のモデル事業として一部で実施されており、平成2年1月現在、数か所で入居が始まっている。この種の住宅は高齢者対応住宅として非常に注目されているが、そのハード・ソフトの具体的な条件についてはまだ各地で試行錯誤の段階にあり、多くの課題が残されている。この点に注目して、シルバーハウジングのハード・ソフト両面の現状と問題点を居住者の立場から検討し、この種の住宅および住生活実現の条件を明らかにすることを目的とした。本報ではハード面に着目し、住宅の設備面と居住者の満足について報告する。

研究方法：まず、シルバーハウジングとしてモデル事業を実施した7か所の地方自治体で策定された資料をもとに、その特徴を検討すると同時に、入居が開始されている自治体にはその計画および運営担当者への面接調査を行なった。次に入居者に対する聞き取り調査を行なった。

結果：どの計画も駅から十数分以内の比較的便利な場所で考えられているが、一般住宅と同時に考えている所と、高齢者住宅のみを考えている所がある。住宅プランは高齢者の生活を配慮したバリアフリー落とし込み浴槽などが共通して考慮されている。しかし、設備面ではお金がかかるため高齢者自らが設置することに困難がある、電話や冷暖房設備などは設置されていない場合が多い。住戸面積は32㎡から66.78㎡と計画によって差が大きい。